

平成30年度鳴門市撫養小学校学校評価アンケート結果と考察

鳴門市撫養小学校

1 学校評価の流れ

- (1) 児童・保護者アンケート実施 平成30年11月30日(金)～12月7日(金)
アンケート調査項目は、全市共通の「学校評価鳴門プランに基づき、学校独自調査項目を加えたものを調査用紙に印刷し配布、回収。※回収率 児童 99.6% 保護者 88.8%
児童用調査項目 鳴門プラン23項目+撫養独自4項目 計27項目
保護者用調査項目 鳴門プラン22項目+撫養独自2項目 計24項目
※別紙資料(児童アンケート用紙、保護者アンケート用紙)参照
- (2) アンケート結果集計
鳴門教育大学葛上研究室岸本様に依頼し集計結果をグラフ化する。
- (3) 「自己評価」をまとめる
① 校内でアンケート集計結果を考察し、それを基に、鳴門プランと学校の自己評価をまとめる。
② 自己評価結果をもとに学校関係者評価資料を作成する。
- (4) 「学校関係者評価」を実施(2月18日月曜日関係書類発送 回収)
学校評議員により「自己評価」を評価する。
関係書類 1 平成30年度鳴門市撫養小学校学校評価アンケート結果と考察案
2 学校評価鳴門プランに基づく学校自己評価表
- (5) 「評価結果の報告と公表」を行う(2月下旬予定)
鳴門プランをまとめ、報告書を作成し、市教委へ報告する。校内では「学校関係者評価」結果をもとに公表文書を作成し、保護者へ配布するとともにホームページに掲載し結果を公表する。

2 児童アンケート集計結果の考察

※年度後の数値は「よくあてはまる」と「ややあてはまる」を合計した割合)

◎は5ポイント以上の上昇 ○は5ポイント未満の上昇

―は1ポイント未満の増減か同じ

△は5ポイント未満の下降 ×は5ポイント以上の下降

問1 先生は、毎日の授業を分かりやすく教えてくれる

H28 97.4% H29 98.4% H30 92.1% ×

肯定的評価の割合は下がったが、全学年概ね好評価であった。9割を越えた児童が分かりやすい教え方と認識できるのは、学習内容が理解できていることであり嬉しい結果である。同時に「あまり・まったくあてはまらない」の回答状況と問3の「テストでは、思い通りの点数が取れている」の回答状況とが連動している（分かりやすい授業と思えない児童が思い通りの点数がとれていないと回答しているのではないと思われる）ことが見て取れる。早急に個に応じた指導法の工夫を図らねばならない。

問2 漢字や計算の力がついてきている

H28 89.9% H29 91.5% H30 90.5% △

割合は昨年度より少し落ちているが、9割を超える児童が基礎学力の獲得を実感している。分かりやすい授業の実践は、これからも重要な課題である。ただ、従前より力のある者が力の伸びを感じることは容易ではないことやその逆もあるため、この数値は基礎学力の定着状況を表すものではないととらえている。

問3 テストでは、思い通りの点数が取れている

H28 74.1% H29 68.2% H30 73.0% ○

「あてはまる」から「まったくあてはまらない」までの4つの回答割合は、年次毎に個人の回答は変わっているかも知れないが、本年度も1年から6年までほぼ同じ比率であった。今回肯定的回答の割合は上昇した。指導要領の改訂を視野に入れ、育成すべき力を明確にとらえ充実した学習を展開し、更なる向上を図りたい。

問4 進んで運動し、体力づくりをしている

H28 82.8% H29 81.7% H30 85.9% ○

3年目を迎えた鳴門市指定の体幹トレーニングの効果もあつてか、肯定的回答の割合は上昇した。学年が上がるほど、体力づくりへの積極性が低くなる傾向や、また休み時間における運動遊び観察や4年生から6年生の新体力テスト結果からの、運動する者とし不在者の二極化が学年が上がる程大きくなる傾向は今回も継続して見て取れる。


問5 授業中、人の話を集中して聞いている

H28 92.1% H29 95.9% H30 90.9% ×

9割が集中して聞くことができているが、肯定的回答割合は下降している。「まったくあて


はまらない」と回答した実数は3つの学年各1名の3名である。評価能力の問題に関わらず、結果を真摯に受け止め、特にこの3名への実態に応じた指導が急がれる。

問6 宿題をきちんとしている

H28 92.9% H29 92.7% **H30 96.3%** 


肯定的回答割合が上昇した。ほとんどの者は宿題ができています。学力向上実行プランにも家庭での学習習慣育成の具体的目標を掲げ、家庭学習の手引き等を活用し、全校体制で取り組んだ成果の現れであろう。

問7 グループで調べたり、話し合ったりする学習が好きである

H28 84.6% H29 88.2% **H30 83.8%** 


平成32年度から完全実施される新学習指導要領は「主体的・対話的で深い学び」を特徴としている。しかし、昨年度より好評価の割合がやや下降した。学年が上がるにつれ好評価者が増える傾向にある。下学年における「学びづくり」の工夫改善が求められる。

問8 テレビやパソコンを使った学習が好きである

H28 86.5% H29 90.6% **H30 89.6%** 


昨年度より好評価の割合がやや下降したが、好評価者はおよそ9割である。昨年度よりICT機器を活用した授業実践を学力向上プランの目標の一つに設定し、タブレットや電子黒板を活用した取組を推進している。機器を使うことを楽しむことも大切であるが、機器の活用は学ぶ手段であることを意識し、学力の向上を図っていかねばならない。

問9 自分には、よいところがある

H28 82.4% H29 84.4% **H30 82.2%** 


昨年度より好評価の割合が少し下降した。下学年より上学年に「よく・ややあてはまる」との回答が多い。心の成長過程にともない自己観察力の成長や自己を見つめる力が育っているのであろうか。良いところがあると感じる自己有用感、心の安定や自信を生み、許容的雰囲気を持つことにつながる。引き続き、認め、ほめ、勇気づける、励ますことを活発に行うことを推進していかねばならない。

問10 先生は、勉強や運動、生活でがんばったときほめてくれる

H28 92.5% H29 92.6% **H30 85.9%** 

昨年度より好評価の割合が下降した。否定的回答は、やはり交友関係でトラブルが発生した学級に多く見られる。「ほめること」「認めること」「勇気づけること」「励ますこと」もは大切である。個への対応と同時に、親和的な集団の形成に留意しなければならない。

問11 物事がうまくいかない時、ねばり強くがんばり続けることができる

H28 86.2% H29 86.6% **H30 86.7%** 

これまでとほぼ同じ割合であった。学年が上がるにつれ、「あまりあてはまらない」と回答する割合が増えてくる傾向も同じである。長時間思考・試行できる粘り強さを育成するた

めに、自己の能力に応じためあてを設定し、そのめあてを達成する具体的方法を持つ習慣をつけなければならない。

問 12 自分の判断で、行動するようにしている

H28 82.0% H29 85.4% H30 86.7%



昨年度より好評価の割合が少し上昇した。自分で判断する際に「身勝手な自己決定」でなく、他の人たちを大切にすることを根拠にした自分の行動を決められるようにしなければならない。そのためにも道徳や人権教育を充実させる必要がある。

問 13 身の回りの整頓は、自分でできている

H28 84.3% H29 82.1% H30 86.3%



昨年度より好評価の割合が上昇した。学年が上がるにつれ、「あまりあてはまらない」と回答する割合が増えてくる傾向はこれまでと同じである。心の成長により、自分でしなければならないことへの理解が深まることと、自分の実態が客観的に見えてくるのが相まって自己評価した結果であろう。身の回りの整頓だけでなく、様々なことにおいて、自分で考え、行動し、責任をとることができる子どもに育つよう、具体的に状況を捉え、個の生活に応じた自立心を引き続き育成していく。

問 14 朝は、決まった時間に起きている

H28 79.8% H29 82.9% H30 84.2%



昨年度より好評価の割合がまた少し上昇した。学年が上がるにつれ夜更かしが増え朝起きにくくなるのか、「あまりあてはまらない」と回答する割合が増えてくる傾向にある。問 13「身の回りの整頓は、自分でできている」と同様に、自立心育成の取組の一つとして改善に取り組む必要がある。

問 15 先生、友だち、近所の人に進んであいさつをしている

H28 85.4% H29 84.1% H30 82.6%



好評価の割合がまた少し下降した。みんなにあいさつすることで、発言が積極的になったりコミュニケーションが円滑化しいじめ防止につながるとも言われる。校内での日常観察からはあいさつを返すことはよくできている。自発的にできるようにする必要がある。

問 16 学級の係や当番の仕事、そうじなどに、積極的に取り組んでいる

H28 94.7% H29 88.9% H30 91.3%



昨年度より好評価の割合が上昇した。どの学年の児童も依頼された作業は意欲的に取り組んでいる。校内での日常観察から、特に高学年の清掃態度に課題が見えるが、自己評価結果もそれに合ったものであった。このことは冷静に自己を見る目を持ち合わせていることを表しており、改善の可能性が感じられる。

問 17 学級、学校の一員として、考えて行動している

H28 86.5% H29 86.6% H30 85.9%



昨年度と同じ割合であった。問 16 の結果との関連が見える。責任を果たす活動の推進とそれを支援する体制が整っていることを実感させることで帰属意識を育み、愛校心や郷土愛を育成したい。

問 18 地域の行事などに参加している

H28 67. 1% H29 72. 4% H30 72. 6%



好評価の割合は昨年度と変わらない。本年度めざす子ども像の一つに「撫養を知り、撫養に関わり、撫養を愛する子」を掲げ取り組んでいる。地域の理解や世代を超えた交流は郷土愛を育み、地域を活性化させる。保護者問 23「子どもは、ゆとりのある生活を送れている」の結果から休日や放課後にゆとりの少ない子どもも多いようである。地域行事参加の効用について保護者への啓発を引き続き実施したい。

問 19 先生は、困ったり悩んだりしたときに、相談にのってくれる

H28 88. 3% H29 90. 6% H30 84. 2%



昨年度より好評価の割合が大きく下降した。問 10「先生は、勉強や運動、生活でがんばったときほめてくれる」と回答状況がよく似ている。上学年になるにつれ「あまりあてはまらない」と回答する割合が増えてくる傾向にある。学年が上がるほど、「自分の思いがどれだけ聞き入れられたか」ということが、相談にのってくれたかどうかの判定基準になっている様子が多く見られる。先生との人間関係は相談する・しないにも大きく関わる。学級経営の充実に継続して取り組まねばならない。

問 20 学校へ行くのが楽しい

H28 88. 4% H29 88. 2% H30 81. 7%



昨年度より好評価の割合が大きく下降した。問 10「先生は、勉強や運動、生活でがんばったときほめてくれる」や問 19「先生は、困ったり悩んだりしたときに、相談にのってくれる」と回答状況がよく似ている。「学校が楽しい」と感じる背景には、楽しい状況があること（プラス要因）と、嫌なことがないこと（マイナス要因）がある。全ての児童が学校を楽しく感じられるよう、プラス要因を増やしマイナス要因を無くす実践に取り組まなければならない。

問 21 事故などにあわないよう、いつも気をつけている

H28 97. 0% H29 95. 5% H30 95. 0%



昨年度と変わらない。しかし「あまりあてはまらない」や「まったくあてはまらない」の回答が昨年度に比べ減少した。例年、低学年は保護者の声かけが頻繁に行われているためか注意深い実態が見て取れる。

問 22 避難訓練などは、真剣に取り組んでいる

H28 98. 2% H29 95. 2% H30 95. 9%



昨年度と変わらない。昨年度は全学年に「あまりあてはまらない」の回答が見られたが、今回は特定の学級だけであった。問 21「事故などにあわないよう、いつも気をつけている」と合わせて、全ての子に危機意識を強く持たせなければならない。

問 23 いじめはどんな理由があってもいけないことだと思う

H28 97.0% H29 98.4% **H30 96.3%** 


例年同様、高い好評価の割合を維持している。「いじめてもしかたのない時がある」と感じている0.8%（2名）の意識を変えなければならない。

問 24 3Lの3つの言葉を知っている

H28 82.8% H29 79.3% **H30 92.5%** 


9割を越える認知度であった。機会ある毎に「3L」に関する話をしてきた成果であろう。全校児童が「3L」と尋ねられ、はっきりと自信をもって「LOVE LEAD LEARN」と答えられるようになってきた。本校の特色ある取組である。言葉だけでなく活動をも啓発していかなければならない。

問 25 仲良しの友だちがいます

H28 質問なし H29 94.7% **H30 96.7%** 

昨年度より好評価の割合は少し上昇した。「まったくあてはまらない」と0.8%（2名）が回答している。早急に状況を確認し、対応しなければならない。

問 26 撫養のまちが好きです

H28 85.4% H29 91.9% **H30 88.4%** 

特定の学級に「まったくあてはまらない」との回答が高い割合で見られ、昨年度より好評価の割合が下降した。学級でのトラブルが原因と見られる。

問 27 参観日や行事の日にお家の方は来てくれます（新設）

H29 質問なし **H30 92.1%**

本年度本校独自の質問項目である。良い結果であるが、全校で3.3%（約8人）が「まったくあてはまらない」と回答している。この子たちは学校でのようすをぜひ家族に見てほしいと願っているであろう。

3 保護者アンケート集計結果の考察

※年度後の数値は「よくあてはまる」と「ややあてはまる」を合計した割合)

◎は5ポイント以上の上昇 ○は5ポイント未満の上昇

―は1ポイント未満の増減か同じ

△は5ポイント未満の下降 ×は5ポイント以上の下降

問1 子どもは、学校の勉強に意欲的に取り組んでいる

H28 85.7% H29 88.5% H30 92.1%



保護者参観時はやや余所行きの学習態度であることを認めた上での回答と思われるが、好評価の割合が上昇した。子どもの学ぶ姿を直接参観する機会は今後も維持したい。

問2 子どもの学力の状況はよくわかっている

H28 87.3% H29 92.8% H30 92.1%



昨年度と変わらないが、学力状況はよく理解されている。しかし、特定の学級に「まったくあてはまらない」との回答が高い割合で見られた。子どもの状況が保護者の学力への関心に大きな影響を与えるようである。

問3 学校は、基礎的な学力定着に熱心に取り組んでいる

H28 87.7% H29 91.0% H30 86.5%



昨年度より好評価の割合が下降した。この回答も、特定の学級に「あまり・まったくあてはまらない」との回答が高い割合で見られた。問2「子どもの学力の状況はよくわかっている」同様、子どもの状況が保護者の評価に影響を与えるようである。

問4 学校は、子どもの体力作りに熱心に取り組んでいる

H28 73.0% H29 80.0% H30 80.5%



昨年度と好評価の割合は変わらない。3年目を迎えた鳴門市指定の体幹トレーニングや市で開催される、体操発表会や水泳検定会、陸上運動記録会でも多くの成績優秀者を輩出したことなどが反映されたのであろう。

問5 学校は、子どもの学習規律の定着に熱心に取り組んでいる

H28 82.4% H29 90.0% H30 81.4%



昨年度より好評価の割合が大きく下降した。この回答も、特定の学級に「あまり・まったくあてはまらない」との回答が高い割合で見られた。安心・安定した学級風土は授業の前提条件である。望ましい、信頼される学級経営を推進し家庭と連携し学習規律の定着に取り組んでいけるよう、全職員がチームを組み改善を図らねばならない。

問6 子どもは、家庭学習(宿題)をきちんとしている

H28 92.6% H29 93.8% H30 94.0%



児童調査結果同様、昨年度より好評価の割合が少し上昇した。学力向上実行プランに家庭

での学習習慣育成の具体的目標を掲げ、家庭学習の手引き等を配布し、学年通信でも盛んに家庭学習について啓発してきた取り組みの成果であろう。家庭学習(宿題)ができているかどうかの確認状況やそこでの言葉かけなどについて把握することも継続したい。

問7 子どもは、自分のいいところを理解している

H28 79.9% H29 80.4% H30 80.0% —

好評価結果の割合はほぼ昨年度と変わらない。児童問9「自分には、よいところがある」の結果も好評価結果はやや下降したが、保護者もほんのわずかが下降した。家庭と連携し、社会性の基礎となる自己有用感の育成を図らねばならない。

問8 子どもがよいことをしたときは、積極的に褒めている

H28 94.7% H29 96.7% H30 93.5% △

昨年度より好評価の割合が少し下降した。自己有用感は、自分以外の者から、特に家族から肯定的に受け入れられることによって育まれる。学校はもちろん保護者や地域への啓発が必要である。

問9 子どもは何事にも粘り強く取り組む

H28 70.9% H29 67.6% H30 67.9% —

問10 子どもが粘り強く取り組めるよう、家庭でも応援している

H28 92.6% H29 88.6% H30 88.4% —

問9、問10ともに、昨年度と好評価の割合は変わらない。粘り強さが弱いと、自己憐憫や、他者非難に結びつきやすい。児童の約87%は頑張れると回答している。引き続き粘り強さの育成を目指し、価値があり達成可能な目標を定め、実践する能力を育成しなければならない。

問11 子どもは、自分の身の回りのことを自分でしている

H28 77.8% H29 84.8% H30 82.8% △

昨年度より好評価の割合がやや下降した。児童問13「身の回りの整頓は、自分でできている」の結果より約86%が自分の身の回りのことを自分でしている、と回答している。回答の割合に大きなズレはない。今後まだ支援を要する約2割の児童に向け、発達に応じた生活上の自立だけでなく、学習上や精神上的の自立を促さねばならない。

問12 子どもは、ルールを守る意識が育っている

H28 91.8% H29 96.2% H30 91.6% △

昨年度より好評価の割合が下降した。集団生活を通してマナーやルールを理解させ、守る意識を育てるとともに、人間関係力などを育むことが大切である。

問13 子どもは、先生、友達、近所の人に進んであいさつをしている

H28 77.5% H29 78.1% H30 74.4% △

昨年度より好評価の割合が少し下降した。子どもにあいさつをさせることをしつけることは必要だが、大人が見本を示し、あいさつする環境を作ることも重要である。地域・家庭への啓発に力を注ぐ必要がある。

問 14 子どもは、人のことを大切にして、友だちと仲良くしている

H28 96.3% H29 96.6% H30 95.8% -

例年と同じ割合であった。「仲良くしている」という状況を、トラブルを起こさないという消極的な態度でなく、積極的により良い関係を保つようなものにしなければならない。

問 15 子どもと社会や将来のことを話し合っている

H28 69.2% H29 70.5% H30 63.7% ×

昨年度より好評価の割合が下降した。子どもが夢を語らなくなるは、現実が見えてきたという点で、ひとつの成長の表れともいわれるが、主体的に生きていくようにするためにも、中学や高校、大学、仕事などに関して楽しい話を聞かせること、さらに教職員や保護者が人生や生活を楽しむ姿を見せること、社会や将来のことを語ることを啓発していく必要がある。

問 16 子どもは、学校のことをよく話してくれる

H28 79.1% H29 77.6% H30 77.7% -

昨年度と変わらない。話す・聞くは車の両輪であり、子どもは聞いてくれる環境が整っていないと進んで語ろうとはしない。引き続き団欒の工夫への啓発が必要である。

問 17 子どもは、楽しんで学校に行っている

H28 93.4% H29 93.4% H30 86.0% ×

昨年度から好評価の割合が下降した。児童問 20「学校へ行くのが楽しい」の回答結果と大きなズレはない。学校が楽しくなる要因には、学校や家庭での様々な状況が考えられる。学校と家庭が情報を交換し合い、一人一人の状況を把握し、連携しながら楽しい学校生活を支援する必要がある。

問 18 子どもが交通ルールを守るよう、働きかけている

H28 96.7% H29 97.2% H30 96.3% -

好評価の割合は例年と変わらない。全ての方が子どもの安全に働きかけるよう啓発を継続しなければならない。

問 19 子どもと防災のことについて、家で話し合っている

H28 77.5% H29 68.6% H30 67.4% △

昨年度より好評価の割合がまた下降した。昨年夏、北大阪で発生した地震によるブロック塀倒壊の惨事を受け、本校も校舎周辺のブロック塀倒壊危険箇所改修工事が予定されている。物心両面の備えあれば憂いなしである。家庭での防災についての話し合いは重要な課題である。

問 20 学校は、いじめや生徒指導の問題について、素早く対応してくれる

H28 82.4%

H29 80.0%

H30 74.4%

×

昨年度より好評価の割合が下降した。トラブルが発生した学級の評価は、当然厳しい内容であった。対応の素早さ、対応過程、対応結果内容など全てに留意し、事案一つ一つに真摯に対応し、丁寧な取り組みを実践しなければならない。

問 21 学校から、情報が十分発信されている

H28 80.7%

H29 79.1%

H30 74.4%

△

連続して好評価の割合が下降した。発信情報には個人的なものと学級・学年・学校共通のものがある。個人情報の保護や守秘義務などに配慮した上で、伝えたい情報と知りたい情報が相応するよう可能な限り発信しなければならない。

問 22 学校行事などに積極的に参加している

H28 84.4%

H29 90.0%

H30 85.6%

△

昨年度より好評価の割合が下降した。問 21「学校から、情報が十分発信されている」との関連で、活発に行事参加していただくことで知りたい情報が得られるという流れでなく、情報を発信することで参加を得られるようにしたい。

問 23 子どもは、ゆとりのある生活を送れている

H28 質問なし

H29 75.7%

H30 75.8%

—

昨年度と変わらない結果である。子どものゆとりは大人のゆとりに大きく影響されていると思われる。ゆとりがあれば何事もうまくいくということでもないだろうが、ゆとりがあるに越したことはない。ただし、ゆとりと規則正しさの両面から見ていくことが必要である。

問 24 PTA 活動に参加している

H28 質問なし

H29 87.6%

H30 87.4%

—

昨年同様、好評価の割合が大きい。本校独自の PTA 組織がうまく確立されており、学年毎の役割分担が明確に理解されているからであろう。